

試行検証の概要及び検証を通じて把握した主な課題等（令和元年8月末時点）

別紙

検証項目等	検証概要	検証を通じて把握した主な課題等	
暑さ対策 ・ビーチバレーボール ・ボート ・トライアスロン ・ホッケー	○ハード対策 ・休憩所（テント、ウォーターサーバー等）、極微細ミスト、散水チューブ等の設置 ○ソフト対策 ・涼感マフラータオル、瞬間冷却保冷剤、扇子等の配布 ○救護所（ビーチバレーボール） ・医師・看護師を配置、簡易ベッド1床	<ul style="list-style-type: none"> ・テント+ミスト、テント+扇風機は、暑さ指数の低減効果が高い。 ・体を冷やす（マフラータオル等）グッズは概ね高い評価 ・救護所利用実績7名のうち、熱中症疑いの患者が4名 ⇒大会時のラストマイルの距離や観客席数、競技日程等を勘案すると、熱中症疑いの患者が同時複数発生する可能性 	 <p>▲テント（遮光遮熱性シート）+極微細ミスト ▲救護所</p>
シティキャスト ・ビーチバレーボール ・トライアスロン ・ホッケー	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアリーダー経験のあるシティキャスト応募者が実際に活動 ・活動人数 50人程度（3競技合計） ※1回当たり、30分・45分・60分と活動時間を設定	【活動後のアンケート結果】 <ul style="list-style-type: none"> ・ビーチバレーでは炎天下の活動であったが、活動時間は60分が適切という意見が多い一方で、45分程度が適切との意見もあり（かぶるタイプの傘の感想） ・風に弱いという意見があるものの、暑さ対策としては良好 ・ハンズフリーが利点 ・人目を引くため、シティキャストであることが分かりやすいという一方で、見た目が気になるという意見あり 	 <p>▲シティキャストの活動の様子</p>
観客輸送 ・ボート	○バス輸送 ・観客のバス輸送を試行 ○観客誘導 ・バス乗降場内や、駅から乗降場までの観客誘導を試行 ・駅構内におけるスムーズな旅客誘導を検証	<ul style="list-style-type: none"> ・天候の影響により、競技時間の前倒しが発生（競技3日目・4日目） ⇒観客の退場動向に応じ、回送車の活用により運行ダイヤを変更する等の対応を行い、観客の滞留を解消 ※海の森水上競技場へのバス輸送観客数 5日間計約5,500人（大会時の収容人数 16,000人） 	 <p>▲バス輸送 ▲バス乗降所</p>
アクセシビリティ ・ボート	<ul style="list-style-type: none"> ・障害当事者（※）と最寄駅から会場内まで移動（バス乗降含む） ・会場内外の動線や観客席、トイレのアクセシビリティを確認 ※車いす使用者（4名）視覚障害者（1名）聴覚障害者（1名）	【障害当事者からの主な意見】 （車いす使用者） <ul style="list-style-type: none"> ・シャトルバスへの乗車はスロープが急ではあったが、スタッフのサポートもありスムーズに乗車できた。 ・車いすの固定は十分であった。（視覚障害者） ・初めての場所は不安なため、ボランティア等にルート、休憩できる場所、ミスト設置場所等の案内をしていただけると安心して観戦を楽しむことができる。	 <p>▲スタッフによる車いす乗車サポート ▲車いすの固定（バス車内）</p>
都市オペレーションセンター（COC） ・ビーチバレーボール ・ボート ・ウェイトリフティング 他	<ul style="list-style-type: none"> ・連携体制を検証（COC・シティキャスト・救護所・会場内・輸送センター等） ・シミュレーションによる事案発生時の対応手順を検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・同時発生事案の対応中に、現場で起きた情報を詳細にデータベース入力することは限界がある。 ・即時対応のために、本部で把握している情報（大会運営情報、交通情報、気象予測等）と現場の観客等の情報を双方でリアルタイムに共有することが必要 	 <p>▲熱中症患者の搬送（訓練） ▲COC支部（訓練）</p>